



アーティスト／Elisabeth Howey（エリザベス・ホーウェイ）

## 祭りは見ているより参加した方が面白い

ドイツ、ライプチヒ在住の女流芸術家 Elisabeth Howey(エリザベス・ホーウェイ)氏を招待し、かつてうちのDEアートの拠点であった旧画房"礫"の建物構造の特長を活かして滞在し、地域の人々と交流を図りながら公開制作、展示シミュレーション、吉田稻荷神社におけるインスタレーションを行った。150個ほどのオブジェを来場者にもらい受けて頂く事を通して、芸術文化の広がり、拡散、浸透を意図した。芸術の専門家や愛好家とそれ以外の人々の境目を無くし、より多くのごく普通の人々が芸術文化に慣れ親しみ、日常的に広く一般社会に浸透し、芸術を生活の中に取り入れて楽しむことを通して、地域が豊かに洗練されて行くことを狙いとした。元々興味関心のある人は、公開制作の初日から来場し、その後も時折差し入れをして頂き、最終日にオブジェを引き取りに来られた。また、制作会場の隣の自転車店には、中古自転車の無料レン

タル他、様々な協力と交流をしていただき大変お世話になった。当初は、現代表現に怪訝な反応を示していた人でも、終わる頃には、理解を超越したところで現代表現を受け入れているという、公開制作が地域社会にもたらす効果は、予想していた通りであった。うちのDEアートや水と土の芸術祭の蓄積もあり、地域として受け入れる土壌は構築されている事は実感できた。しかし地域の総意となるには、地元内部からのエネルギーを引き出す人達やプロジェクトの継続が必要と考える。祭りは見ているより参加した方が面白い。これはこの企画にも当てはまった。掃除や準備、前作のサポートをしてくれた学生達は、オブジェの制作側と、来場者や協力者の反応など双方の視点から見つめることが出来、このような形で参加しないと見えてこない物があると認識できた。

- 9月22日(土) 講演 (内野まちづくりセンター)
- 10月7日(日) 講演 (佐潟湿地センター)
- 10月1日(月)~12日(金) インスタレーション展示 (吉田稻荷神社) 他